第６回人権デー

令和６年11月５日
人　権　教　育　課

立ち位置が変われば風景が変わる

次の文の「私」とは、一体どんな人たちのことを指すでしょうか？

・私は子供の安全のために、構造的な人種差別を意識して教える必要はない
・私が口の中に食べ物を入れたまま話したとしても、肌の色を理由に馬鹿にされることはない
・私は自分の外見やふるまい、体臭で、私の人種が評価されるということに気を遣う必要がない

これは、白人であることの日常的な特権「※白人特権」の例です。　※実際にはそのような表現はありません

みなさんはこれまでに、バスや電車、船や飛行機などの交通手段を利用したことがあると思います。そんな、一般的な交通手段の利用を「特権」だと思ったことはありますか？

車いすに乗った誰かが市外バスに乗りたがっているのを目撃するまで、自分が特権を享受しているんだと思う人はほとんどいないでしょう。

では、次の文はどんな人たちの「特権」でしょうか。

・私は夜に公共の場所をひとりで歩くことを怖がる必要がない
・私の運転が不注意だからといって、人々はそれを私の性別のせいにはしないだろう
・私がたびたび昇進に失敗した場合、その理由は性別のせいではないだろう

「特権」と「差別」に深いつながりがあるとしたら、「特権」を自覚していないということは、どんなに恐ろしいことでしょうか。

私たちの社会は平等なのか。そのことを確かめるためには自分と違う立場に立って物事を考えなければなりません。「立ち位置が変われば風景が変わる」ということを忘れず、生きていきたいものです。

出典：「差別はたいてい悪意のない人がする」　大月書店

感じたこと、考えたことを自由に書いてください

（　　）年（　　）組　氏名（　　）